

くらしをみつめる・・・柏桃の輪



・2004年6月6日発足 ・会員数57名（H24.3現在）

原子力発電所と共生する中で、正確な情報を得て、正しい知識を身につける必要性を感じ設立。原子力発電所のあるまちの住民として、私達の暮らしを支えているエネルギーについて、生活者の視点で正しく理解し、考え、判断し、行動することを活動の基本としています。

平成23年度(H23.4.1~H24.3.31) 主な活動

4月 第7回定期総会

平成23年度の定期総会を29名の参加者のもと開催。平成22年度の事業報告、会計報告と平成23年度の事業計画、予算が承認された。今年度の事業は福島原発事故を受け、状況を見ながらの実施となることを代表より説明。取り組む事業として、福島原発事故の解説、放射線の勉強、電力不足をどうするかなど課題を確認した。



基調講演「原子力の事故と防災」

東日本大震災から20日、福島第一原発事故の状況説明と原子力防災の考え方についての講義。事故直後でもあり一般参加者も多く住民の関心の高さがうかがわれた。

講師:竹本 亮氏
経済産業省原子力安全・保安院
柏崎刈羽原子力保安検査官
事務所長 (参加者43名)



5月 「放射線の人体への影響」(1)

放射線を正しく知って正しく怖がる。福島第一原発事故をめぐる情報から、知りたい、聞いておきたい、放射性物質を基礎から学んだ。福島と同じ原発立地住民として放射性物質の量と人体への影響を詳しく学び、多くの質問に答えてもらった。

講師:小林泰彦氏
(独)日本原子力研究開発機構
(参加者 38名)



6月 「水や食べ物と放射線」(2)

放射性物質の食べ物に与える影響について詳しく学んだ。人体への影響の有無は、浴びた量による。過敏にならずに正確な情報を得て正しく判断することが大事。家族の安全・安心のためにもより関心を深く持った。

講師:小林泰彦氏
(独)日本原子力研究開発機構
(参加者 38名)



6月 柏崎刈羽原発の地震における津波対策の現状説明と現地見学

福島第一原発事故を受けて、柏崎刈羽原発の安全対策について現状説明と現地見学後、意見交換を実施。

- ・電源車、消防車、ショベルカー
- ・建屋止水対策
- ・防潮壁建設予定地
- ・防潮堤建設予定地

(参加者 23名)



7月 「福島第一原子力発電所事故に関わる今後の課題」講演会

深刻な状況が続く福島第一原発事故によって失われた美しい福島の実環境修復。電力不足をどう乗り切るか等、震災後初めて専門家から現状をお聞きした。市民の関心も高く多くの参加者が耳を傾けた。

講師:山名 元氏
京都大学原子炉実験所教授
(参加者 88名)



9月 「放射線の食品、医療での利用」①

放射線は身の回りの様々な場所に存在すること、食品、医療の幅広い分野で放射線の技術が利用されていることなどを学び、福島第一原発事故によって報道されている放射線量(測定値)についてもお聞きし、正しく知って正しく怖がる必要性を感じた。

講師:小林泰彦氏

(独)日本原子力研究開発機構

(参加者 24名)



10月 「放射線の産業利用に係る 実用化について」②

私たちの身の周りに多くの放射線を利用した物があることに改めて気づき、これまでの放射線利用の復習となった。解りやすい講義と実験もあり、怖いと思う放射線をより身近に感じる事が出来た。

講師:吉井文男氏

(独)日本原子力研究開発機構

(参加者 30名)



10月 サイエンスカフェ「食と放射線」～作って、食べて、楽しく学んで 交流しませんか?～

原子力発電立地地域の仲間づくりをテーマに福島から避難している皆さんと一緒に、柏崎の郷土料理を作り、食べて、放射線について学びました。

①10:00~ 煮しめ、ぜんまい等の郷土料理作り

②12:00~ 食事会と交流会

③12:45~ 講話:増田昌子氏

(共に育ち合い(愛)サロン「むげん」姐さん)

④13:15~ 「食と放射線」の勉強

講師:碧海西葵氏(消費生活アドバイザー)

(参加者 36名)



10月 講演会「3・11 後の原子力 安全問題と市民対話を考える」

東北大学名誉教授 北村正晴氏を講師に3・11 後の原子力と社会の関係を考える機会とした。安全のあり方を問直し専門家と市民の関係を再見直す事の重要性を学んだ。(参加者86名)



12月 原子力防災と放射線

3・11 以後、原子力防災に大きな関心を寄せてきた。原子力発電の防災対策重点地域の範囲を見直す作業が国、県で進められている。福島第一原発事故を教訓に「柏崎刈羽原発の過酷事故時における対策の事務局素案」の説明を受けた。

講師:安田 宏氏

(新潟県防災局原子力安全対策課課長補佐) (参加者 34名)



1月 講演とWS「原子力発電の 安全・安心・信頼を考える」

演題 「人の認知とリスクコミュニケーション」

WS 「原子力発電所と自分たちを振り返る」

3・11 以後の様々な情報の中、原点に立ち返り安全・安心・信頼を考える機会とした。

講師:木村 浩氏

(東京大学准教授)

(参加者 44名)



2月 講演会 「エネルギー政策と暮らし・経済・環境」

～今、私たちは何を議論すべきなのでしょう?～

エネルギー政策の流れ、量から経済性、環境へと変化。経済とエネルギー政策は表裏一体等、これまでにない視点の講演に多くの参加者から新鮮だったと好評をいただいた。

講師:澤 昭裕氏 (NPO法人国際環境経済研究所所長)

(参加者 80名)

